

2026 年度 住総研 実践助成 申請書

*行数が足りない場合は、自由に行数を増やして構いません。(1.～5.共通)

1. 申請者（主査）の「実践活動」及び「研究歴」

氏名・かな 所属	
1) 実践活動・ 研究歴 (学歴を含む) 2) 学位 3) 受賞歴 を記入	

2. 委員の「実践活動」及び「研究歴」

氏名・かな 研究実施機関	
1) 実践活動・ 研究歴 (学歴を含む) 2) 学位 3) 受賞歴 を記入	

氏名・かな 研究実施機関	
1) 実践活動・ 研究歴 (学歴を含む) 2) 学位 3) 受賞歴 を記入	

氏名・かな 研究実施機関	
1) 実践活動・ 研究歴 (学歴を含む) 2) 学位 3) 受賞歴 を記入	

3. グループの受賞歴

グループ としての 受賞歴	
---------------------	--

4. 実践活動の 1) 背景と目的・意義 2) 「当財団の目的：住生活の向上に資する」との関係

3) 学術研究との関係 4) 位置づけとその理由 (若干の図表を加えて説明も可能です。)

1) 背景と目的・意義

2) 「住生活の向上」との関係

3) 学術研究との関係 (これまでの学術研究との関係並びに、本活動が将来の学術研究にどのように結びつくかについても記載してください。)

4)実践活動の位置づけとその理由（該当するものに☒チェックをし、その理由を記載してください。

複数選択可。）※書ききれない場合は、行数を増やして記載してください。

☐

A. 公益性がある（社会貢献・地域貢献など）

理由）

☐

B. 先見性に富む

理由）

☐

C. 社会的な実用性の向上に貢献（どう役に立つのかなど）

理由）

☐

D. 将来の成長が期待出来る

理由）

5. 当該助成期間における、実践活動の具体的「内容」等

必ず、主査及び各委員の「役割」も記載してください。

1)実践活動の「内容」（具体的に）

2)実践活動の「方法」（具体的に） ※添付資料でも構いません。

**費目と研究の関係について、必要金額も含め記入してください。ここに記載のない費目については、
査定対象とすることがあります。**

(活動全体に参加する場合と補助的・部分的に参加する場合は、それぞれに「活動全体」・「補助的・部分的」に分けて記載してください。)

6)実践活動の成果（活動がどのようなこと・ものに結びつくか、またその活動によって何が見えてくるのか。本助成活動で期待される効果や発掘される課題等について記載してください。）
※本助成活動が継続する活動の一部である場合は、その継続する活動の目的とこれまでの成果についても記載してください。

7)当助成活動に関係する既往の活動を具体的に示し、今回申請の活動との違いを要約してください。
※実践者名・研究者名を記載してください。

以 上